

第67回研究大会プログラム

JAPAN SOCIETY for the STUDY of ADULT and COMMUNITY EDUCATION : the 67th Annual Conference

日時 2020年9月11日(金)～13日(日)
オンライン(ZOOM)開催

9月 11日 金		13:00～15:00 プロジェクト研究 「SDGsと社会教育・生涯学習」 「高齢社会と社会教育」	16:00～18:00 自由研究発表 1・2
12日 土	10:00～12:00 自由研究発表 3・4・5	13:00～15:00 自由研究発表 6・7・8	16:00～18:00 特別企画 「新型コロナウイルス感染症と 社会教育学研究の課題」
13日 日	10:00～12:00 プロジェクト研究 「社会教育士養成の可能性と課題」 「ワークライフバランス 時代における社会教育」	13:00～15:00 自由研究発表 9・10・11	16:00～18:00 自由研究発表 12・13・14

研究大会への参加は会員のみに、事前申込とします(2頁参照)。

〈事前参加申込みシステム〉受付期間:8月17日(月)～8月30日(日)

※参加無料。なお、準備の都合上、事前申込後の中止の場合もあることをご了承ください。

*参加方法については、3頁「オンライン開催の手引き」をご覧ください。

*自由研究発表者は、当日資料を下記受付期間内に〈発表資料投稿システム〉にご提出ください。

受付期間:8月17日(月)～8月31日(月)

*なお、全国理事会は9月26日(土)18時～、総会は10月3日(土)13時～でどちらもオンラインでの開催を予定しています。

【目次】

◇第67回研究大会・事前参加申込について	2
◇オンライン開催の手引き(参加者用)	3
◇第1日目(9月11日)プログラム	
プロジェクト研究「SDGsと社会教育・生涯学習」「高齢社会と社会教育」	5
自由研究発表1・2	6
◇第2日目(9月12日)プログラム	
自由研究発表3・4・5	7
自由研究発表6・7・8	8
特別企画「新型コロナウイルス感染症と社会教育学研究の課題」	10
◇第3日目(9月13日)プログラム	
プロジェクト研究「社会教育士養成の可能性と課題」 「ワークライフバランス時代における社会教育」	11
自由研究発表9・10・11	12
自由研究発表12・13・14	13

■事前参加申込について

今回の大会はオンライン開催につき、参加は会員のみ、また事前申込みでの受付とさせていただきます。

参加希望の会員の皆さまには、学会ホームページよりオンライン参加登録手続きを行っていただきます。混乱を防ぐため、大会当日の参加は受付いたしませんので、必ず事前申込をしてください。オンラインで手続きが出来ない場合は、事務局までご連絡ください。

なお、今回オンラインでの開催ということで、様々な対応を学会HP（一斉メール）にて通知いたしますので、メールアドレスの登録をお忘れなきようお願いいたします。

今大会では、参加費は徴収いたしません。

※大会準備の都合上、お申込み後のキャンセルはご遠慮ください。初のオンラインでの大会開催となり、事務局も不慣れのためご迷惑・ご不便をおかけすることご理解いただき、円滑な大会運営にご協力いただければ幸いです。

◆オンライン事前参加申込受付：8月17日（月）～8月30日（日）

学会HPの会員サイトにログインして、画面左下にある<研究大会参加申込システム>から参加登録をしてください。当日受付はございませんので、必ず事前申込をお願いいたします。

◆参加費の支払い：なし

◆当日資料の提出について

自由研究発表をされる方は、当日資料の提出もお忘れなく。

提出期間：8月17日（月）～8月31日（月）（**※切厳守**）

提出先：学会HP会員サイトログイン後の<資料集投稿システム>にて提出

◆問い合わせ先

大会についてのお問い合わせやご連絡は下記にお願いします。

E-Mail：onlinetaikai2020@gmail.com

大会事務局：富永貴公（都留文科大学）、松山鮎子（早稲田大学）、若原幸範（聖学院大学）

■オンライン開催の手引き【参加者用】

(1) オンライン会議システムについて

- ・本大会では、オンライン会議システム Zoom（ミーティング）を使用します。
- ・Zoom にアクセスするときはアプリの使用を推奨します。アプリは以下のサイトから無料でダウンロードできます。

<https://zoom.us> ※フッターリンクから [download] をクリックする

あるいは、本学会のオンライン会議室に最初にアクセスすると、アプリをダウンロードするように誘導されるので、そちらを利用することもできます。

注) ご所属の環境などでアプリを使用できない場合はウェブブラウザでもオンライン会議に参加できます。ただし、ウェブブラウザによっては正しく動作しないことがあります。Google Chrome の使用が推奨されています。

- ・Zoom のアカウントを作る必要はありません。アカウントがなくても参加できます。

- ・Zoom 関連の参考情報

クイックスタートビデオ（使い方動画）

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLKpRxBfeD1kHaJpuWa-DKjWykMedILZ0x>

以降の説明における Zoom での操作方法は、PC 版のアプリの使用を前提にしています。

(2) 発表を聴講する際のお願い（全プログラム共通）

- ・オンライン会議室では最大接続数があり、これを越えると入室することはできません。あらかじめご了承ください。
- ・多くの皆様に参加していただくため、一人の方が複数の端末を使って複数の発表に同時にアクセスすることはご遠慮ください。
- ・マイクやヘッドセットをお持ちでしたら、使用することをお勧めします（質問するときや議論するときに、音声をクリアに拾えるようになります）。
- ・発表者や主催者の許可がない限り、受信映像や発表資料の保存（画面キャプチャを含む）、録音、再配布を禁止します。
- ・無用な音声の流入や、不安定なネットワークからの接続などによりセッションの進行に支障があると判断される場合には、司会者がミュート操作を行ったり、接続を切断したりする可能性があります。

(3) 自由研究発表を聴講する場合

- ・自由研究発表は、1人の報告者あたり、発表15分間（事実確認に関わる質問を含む）で行われます。
- ・分野ごとにオンライン会議室が設けられています。会議室のURLは事前にメールで通知します。
- ・セッション開始のおよそ5分前から入室できます。
- ・画面に表示する名前は、申し込み時の氏名と一致させるようにしてください。（表示名は、入室時、もしくは事前にプロフィール設定で変更できます。）

以下に記載する進行方法は、目安として示すものです。当日の詳細な進行については、司会者の指示に従ってください。

- ・自由研究発表の報告中および各発表に対する質疑応答中は、視聴のみとします。カメラとマイクはミュートにしてください。
- ※1 質疑応答は、事前にとりまとめた質問項目を、司会者が代表して質問する方法をとります。
- ※2 オンライン会議室の参加者が少なかった場合、司会者から許可があれば、カメラ・マイクのミュートの解除を認めます。
- ・全体討議では、参加者の皆さんも議論に参加できます。
- ・全体討議の際に意見がある場合には、Zoomアプリの画面下部にある「手を挙げる」ボタンを押して挙手してください。
- ・司会者が指名して音声入力を許可したときに、カメラ・マイクのミュートを解除して、意見を述べてください。
- ・他の人が意見を述べているときには、必ずカメラ・マイクをミュートにしてください。
- ・意見を述べるときは、周辺の音が他の参加者に聞こえてしまわないように、なるべく静かな環境でお願いします。
- ・セッション終了後、会議室を閉鎖します。閉鎖時には強制的に退室させられることになることをあらかじめご承知おきください。

第1日目 9月11日(金)

プロジェクト研究

「SDGs と社会教育・生涯学習 —持続可能な地域と学びづくり—」

13:00~15:00

テーマ 「『SDGs と社会教育・生涯学習』研究の課題と展望」

司会 松岡 廣路 (神戸大学)

報告① 「SDGs と社会教育・生涯学習研究の展望」

田中 治彦 (上智大学)

報告② 「SDG4 をめぐる国際的動向と参加・包摂 (共生)・シティズンシップ」

近藤 牧子 (早稲田大学・非常勤)

9
月
11
日

プロジェクト研究

「高齢社会と社会教育」

13:00~15:00

テーマ 「高齢者教育と高齢者福祉をつなぐ」

司会 若園 雄志郎 (宇都宮大学)、村田 和子 (和歌山大学)

報告① 「高齢社会における地域福祉と社会教育をめぐる理論的課題」

久保田 治助 (鹿児島大学)

報告② 「認知症者をかかえる家族の会のピアサポート・グループの役割：

支援しない支援の可能性」

荒井 浩道 (駒澤大学)

報告③ 「地域自治と教育福祉の再編下における高齢者学習支援」

荻野 亮吾 (佐賀大学)

コメンテーター 辻 浩 (名古屋大学)

自由研究発表 1・2

16:00～18:00 (共同研究者は○印が登壇者)

第1室 原理論・歴史(原理論・思想)

司会 赤尾 勝己(関西大学)

16:00～16:15 教育福祉論の考察

松田 武雄(中村学園大学)

16:15～16:30 国民高等学校をめぐる「近代化」の考察～19世紀デンマークにおける
グロントヴィ主義の民族主義と「民主主義」～

田淵 宗孝(羽衣国際大学)

16:30～16:45 社会教育における人々の記憶と時間意識の生起に関する考察

須藤 誠(東京大学大学院)

16:45～17:15 フィールドにおける〈ローカルな知〉と〈場〉の接合の研究

○前平 泰志(畿央大学)、○鈴木 伸尚(大阪市立大学)

○奥村 旅人(びわこ成蹊スポーツ大学)、生駒 佳也(徳島市立高等学校)

猿山 隆子(京都芸術大学)

(17:15～18:00 全体討議)

第2室 学習文化活動(学習主体)

司会 岩槻 知也(京都女子大学)

16:00～16:15 寄せ場・釜ヶ崎における知の再構成—当事者が関わる表現活動を事例に—

中山 博晶(九州大学大学院)

16:15～16:30 地域連携・多職種連携事業「生命学—いのちを考える—」

体験学習プログラム

飯塚 哲子(東京都立大学)

16:30～16:45 乳幼児をもつ親が育ち合うコミュニティ形成の過程とその意義

丸山 美貴子(北海道大学)

16:45～17:00 当事者の語りから見た高齢者の社会参加

—地域における世代間交流活動を事例に—

楊 映雪(東京大学大学院)

(17:00～18:00 全体討議)

第 2 日目 9 月 12 日 (土)

自由研究発表 3・4・5

10:00～12:00 (共同研究者は○印が登壇者)

第 3 室 原理論・歴史(歴史)

司 会 大村 恵 (愛知教育大学)

10:00～10:15 1960年代後半、長野県における家庭教育の模索
—地域教育雑誌『子どもとともに』を事例として—

山梨 あや (慶應義塾大学)

10:15～10:30 明治期における青年期女性は立身出世をどう捉えたか
—樋口一葉を手がかりに—

福井 庸子 (大東文化大学)

10:30～11:00 昭和期日本を対象とする青年期教育研究の成果と課題

○安藤 耕己 (山形大学)、久井 英輔 (広島大学)

○倉知 典弘 (吉備国際大学)、○大蔵 真由美 (松本大学)

○栗山 究 (早稲田大学・非常勤)、竹淵 真由 (下諏訪町教育委員会)

(11:00～12:00 全体討論)

第 4 室 学習文化活動(学習方法・学習過程など)

司 会 岡 幸江 (九州大学)

10:00～10:15 台湾都市部における成人の学びを通じた地域づくりの特質
山口 香苗 (早稲田大学)10:15～10:30 スポーツによる地域づくり論の動向と特徴
笹瀬 雅史 (山形大学)10:30～10:45 「過疎地域」における高・大・地域連携による社会教育実践の検討
村田 和子 (和歌山大学)10:45～11:15 韓国農村地域における教育共同体の創造
—代案学校を核に深化した教育実践の 10 年間の変化に注目して—

○吉岡 亜希子 (北海道文教大学)

○河野 和枝 (北海道地域・自治体問題研究所)、若原 幸範 (聖学院大学)

(11:15～12:00 全体討論)

第5室 学習機会（社会教育関係団体など）

司 会 小栗 有子（鹿児島大学）

10：00～10：15 持続可能な開発目標（SDGs）についての成人の学習機会

三宅 隆史（シャンティ国際ボランティア会）

10：15～10：30 首長主導教育改革における地域住民の「主体性」の検討

：政策の決定主体となった地域住民の語りを通して

鈴木 繁聡（東京大学大学院）

10：30～11：00 横浜美術館とK2インターナショナルグループの協働による

「若者支援プログラム」の意義

○梨本 加菜（鎌倉女子大学）、○端山 聡子（横浜美術館）

（11：00～12：00 全体討論）

自由研究発表 6・7・8

13：00～15：00（共同研究者は○印が登壇者）

第6室 原理論・歴史（歴史）

司 会 和田 悠（立教大学）

13：00～13：15 成人教育におけるコミュニティアートとしての Origami

—アメリカにおける Origami 団体の誕生と定着—

松浦 英子（東洋大学大学院）

13：15～13：30 米軍占領下沖縄における産業開発青年隊運動と南米移民

山城 千秋（熊本大学）

13：30～13：45 社会教育行政形成過程における教育と宗教の関係

—宗教局文部省移管（1913年）の経緯と意味—

松岡 悠和（京都府立大学大学院）

13：45～14：00 「自分史」における家族の記述に関する研究

川原 健太郎（作新学院大学）

（14：00～15：00 全体討論）

第7室 学習文化活動（学習方法・学習過程など）

司 会 久井 英輔（広島大学）

13：00～13：15 平和学習における学習材の形成過程に関する一考察
：「1 フィート運動の会」における「壕・ガマ調査」活動に着目して

土屋 里穂（東京学芸大学大学院）

13：15～13：30 地域社会教育実践としての「筑豊文庫」の検討

—旧産炭地・鞍手町の地域特性に注目して—

農中 至（鹿児島大学）

13：30～14：00 限界状況における価値意識の再構成

—地域健康学習における生命思想の生成に着目して—

○宮崎 隆志（北海道大学）、○内田 純一（高知大学）

○阿知良 洋平（室蘭工業大学）、○大高 研道（明治大学）

（14：00～15：00 全体討論）

第8室 政策・運動（法・行財政など）

司 会 佐藤 智子（東北大学）

13：00～13：15 少数民族の文化継承をめぐる小規模民族学校の役割

—中国内モンゴルフルンボイル市を事例として—

莫日根（ムリゲン）（東京都立大学）

13：15～13：30 憲法第 89 条「教育の事業」と社会教育

～社会教育の位置づけに関する伝統的論点の今日的意義～

小山 竜司（神奈川大学）

13：30～13：45 施設としての公民館の設置形態—1946 年～1950 年代を中心に—

田所 祐史（京都府立大学）

13：45～14：00 スポーツ行政の首長部局化を専決処分した北海道名寄市の事例検討

大坂 祐二（名寄市立大学）

（14：00～15：00 全体討論）

特別企画

「新型コロナウイルス感染症と社会教育学研究の課題」

16:00~18:00

司会 田中 雅文（日本女子大学）

報告① 「子ども・若者研究の立場から」

阿比留 久美（早稲田大学）

報告② 「東日本大震災の経験から」

石井山 竜平（東北大学）

報告③ 「2020年度における社会教育実習の課題」

村田 晶子（早稲田大学）

報告④ 「社会教育現場での取り組みの課題」

内田 光俊（岡山市教育委員会）

報告⑤ 「学会の取り組みへの問題提起」

朝岡 幸彦（東京農工大学）

第3日目 9月13日(日)

プロジェクト研究

「社会教育士養成の可能性と課題」

10:00~12:00

テーマ 「社会教育士養成の可能性と課題(1)」

—社会教育主事養成課程新設大学の取組みから—

司会 赤尾 勝己(関西大学)、中田 スウラ(福島大学)

報告① 「社会教育主事制度をめぐる議論の歴史的概観」

久井 英輔(広島大学)

報告② 「社会教育主事養成課程新設の取組み—松本大学の事例から」

向井 健(松本大学)

報告③ 「社会教育主事養成課程新設の取組み—高知大学の事例から」

斉藤 雅洋(高知大学)

コメンテーター 内田 和浩(北海学園大学)、

水野 篤夫(京都市ユースサービス協会)

9
月
13
日

プロジェクト研究

「ワークライフバランス時代における社会教育」

10:00~12:00

テーマ 「ワークライフバランス時代の社会教育を問い直す」

司会 池谷 美衣子(東海大学)、野依 智子(福岡女子大学)

報告① 「企業における教育・学習の再検討—働く女性の学習内容・方法を中心として—」

堀本 麻由子(東洋大学)

報告② 「公民館実践再考のための視点—プロジェクト研究3年間の議論を踏まえて—」

井口 啓太郎(文部科学省)

コメンテーター 岡 幸江(九州大学)

自由研究発表 9・10・11

13:00～15:00 (共同研究者は○印が登壇者)

第9室 学習文化活動(学習方法・学習過程など)

司会 久保田 治助(鹿児島大学)

13:00～13:15 全国里親会「里親だより」からみる里親会活動の展開と意義

二村 玲衣(名古屋大学大学院)

13:15～13:30 障害児を持つ親が抱える二重性の課題化プロセスと実践の展開論理

澁江 孟(北海道大学大学院)

13:30～13:45 不登校・ひきこもり支援におけるオンライン居場所支援の可能性を探る

櫻井 裕子(奈良教育大学)

13:45～14:00 「障害」を通じた「マジョリティ」の課題の発見—制約された環境における

東京都国立市公民館コーヒーハウスの実践—

島本 優子(徳島市役所)

(14:00～15:00 全体討論)

第10室 職員(学習支援者)

司会 添田 祥史(福岡大学)

13:00～13:15 障害のある人びとの地域生活を支える公民館実践の創出過程

橋田 慈子(筑波大学)

13:15～13:30 識字実践においてケア的関係はいかに生成するのか

—参加者同士の葛藤とその解決過程に着目して—

長谷川 実(北海道大学大学院)

13:30～14:00 非対称的関係の学習論：障害者の教育実践が提起する学びの形

○津田 英二(神戸大学)、○井上 太一(神戸大学大学院)

○辻合 悠(八尾市役所)、○猪原 風希(神戸大学附属特別支援学校)

(14:00～15:00 全体討論)

第 11 室 地域・地域問題（子育て・学校など）

司 会 松本 大（東北大学）

13：00～13：15 九州地区青少年教育施設の短期主催事業における教育効果について
～事業を構成する各要素との関係性に着目して～

市山 高太郎（西九州大学大学院）

13：15～13：30 学校と地域の学習権論的な関係の成立とその課題

大野 公寛（東京大学大学院）

13：30～13：45 アートを媒介にする教育的アプローチに関する研究

—日常の文脈における集団的創造活動をめぐって—

蔡 越先（北海道大学大学院）

13：45～14：00 教師にとっての「地域」：「社会に開かれた教育課程」をめぐって

園部 友里恵（三重大学）

(14：00～15：00 全体討論)

自由研究発表 12・13・14

16：00～18：00

第 12 室 職員（支援方法・条件整備）

司 会 内田 光俊（岡山市役所）

16：00～16：15 市民と行政による協働への合意形成～「協働の文化」をキーワードに
森 由香（NPO 法人とよなか ESD ネットワーク）

16：15～16：30 支援実践における価値意識の変容・生成過程

村尾 政樹（北海道大学大学院）

16：30～16：45 識字教育を通じた言葉の変容に関する研究

—自主夜間中学における対話的なコミュニケーションの事例より—

溝内 亮佑（九州大学大学院）

16：45～17：00 専門的実践力を培う社会教育実習のデザイン

—実習生・受け入れ担当職員の学びから

倉持 伸江（東京学芸大学）

(17：00～18：00 全体討論)

第13室 学習機会(施設)

司 会 向井 健 (松本大学)

16:00～16:15 生涯学習プラットフォームとしての新たな大学開放の可能性
—学習成果活用支援スタッフの育成プログラムについて—

藤田 公仁子 (富山大学)

16:15～16:30 中国における私立美術館の役割とその可能性
—浙江省嘉興市荻原美術館を事例として—

詹 瞻 (東京大学大学院)

16:30～16:45 棚橋源太郎の博物館論における防災観の考察
生島 美和 (弘前学院大学)

16:45～17:00 英国における博物館入館無料の起源に関する探究
瀧端 真理子 (追手門学院大学)

(17:00～18:00 全体討論)

第14室 地域・地域問題(グローバルイゼーションなど)

司 会 若園 雄志郎 (宇都宮大学)

16:00～16:15 医療自主講座・竹の子塾(1977-1979):水俣環境教育史断章
川尻 剛士 (一橋大学大学院)

16:15～16:30 外国人非集住地域における人権教育実践としての日本語教室の生成と展開
—鹿児島県伊佐市の事例を通して—

酒井 佑輔 (鹿児島大学)

16:30～16:45 学びによって駆動する自治会・町内会の構造とその意義
野村 一貴 (東京大学大学院)

16:45～17:00 持続可能な社会を拓く「対話」とその学習
二ノ宮リム さち (東海大学)

(17:00～18:00 全体討論)

好評発売中

子どもの 学ぶ権利と 多様な学び

誰もが安心して
学べる社会へ 喜多明人 編著



A5判・並製／282ページ
定価（本体2,500円＋税）
2020年2月刊行

学校の限界の中で求められてきた「学校外の多様な学び」に注目しながら、学校内部の「子どもの人権」問題にもメスを入れ、今後の学校の行く末を論じ、その方向性を明らかにする。子ども・若者、誰もが安心して学べる社会の実現のための提言が詰まった一冊。

エイデル研究所

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-9
TEL. 03-3234-4644 FAX. 03-3234-4644 <http://www.eidell.co.jp>

日本社会教育学会 第 67 回研究大会プログラム

2020 年 7 月 27 日発行

【発行】日本社会教育学会事務局

〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8 東京農工大学農学部環境教育学研究室気付

E-mail : jssace.office@gmail.com <https://www.jssace.jp/>

【会費等納入先】

ゆうちょ銀行 振替口座 00150-1-87773 (口座名：日本社会教育学会)

他金融機関からの振込用口座番号 〇一九 (ゼロイチキョウ) 店 (019) 当座 0087773
